

3 . 既往調査

3 - 1 . 地形・地質概要

< 地形 >

奈良盆地は、西を生駒山地・金剛山地に、東を笠置山地にかぎられ、その大きさは東西約 15 km、南北約 50 km である。

奈良盆地北部地域をみると、南部には標高 50～60m の低地が広がり、北 - 西部にかけては標高 100～150m のなだらかな稜線を連ねる丘陵地が発達する。一方、東部では標高 300m 以上の山地地形が平野部との境界をほぼ南北に保ちながら分布する。また低地と、丘陵地・山地との境界部には、段丘地形が発達する。



図 3-1-1 奈良盆地北部の地質分布図 (市原,1993 より)

< 地質 >

奈良盆地の地質構成は大局的にみると、山地を構成する領家帯の岩盤が基盤をなし、その上位に中新世の堆積岩・火山岩類、大阪層群、段丘堆積物、沖積層が分布する(図 3-1-1 参照)。解析領域には、領家帯の花崗岩類・変成岩類が基盤をなし、三笠安山岩、地獄谷累層などの中新統が分布する。これらの上位に大阪層群・段丘堆積物・沖積層が不整合に覆う。北部 - 西部の丘陵地帯では、大阪層群を変形させる雁行した南北性のとう曲がみられる。

3 - 2 . 地質調査、水位観測結果

大和北道路のルート・構造を検討する上で、平城宮跡周辺の地質構造を把握することは重要である。これまで平成 4 年度から平成 11 年度までに平城宮跡内及びその周辺の 16 地点においてボーリング調査を実施し、地層構成を確認した。

また、ボーリング孔を利用した水位観測を行い、平城宮跡周辺の地下水の流れ、変動状況について調査してきた。

これまでに実施したボーリング調査位置を図 3-2-1 に示した。

ボーリング地点間隔は、ほぼ 0.5km 間隔で実施した。

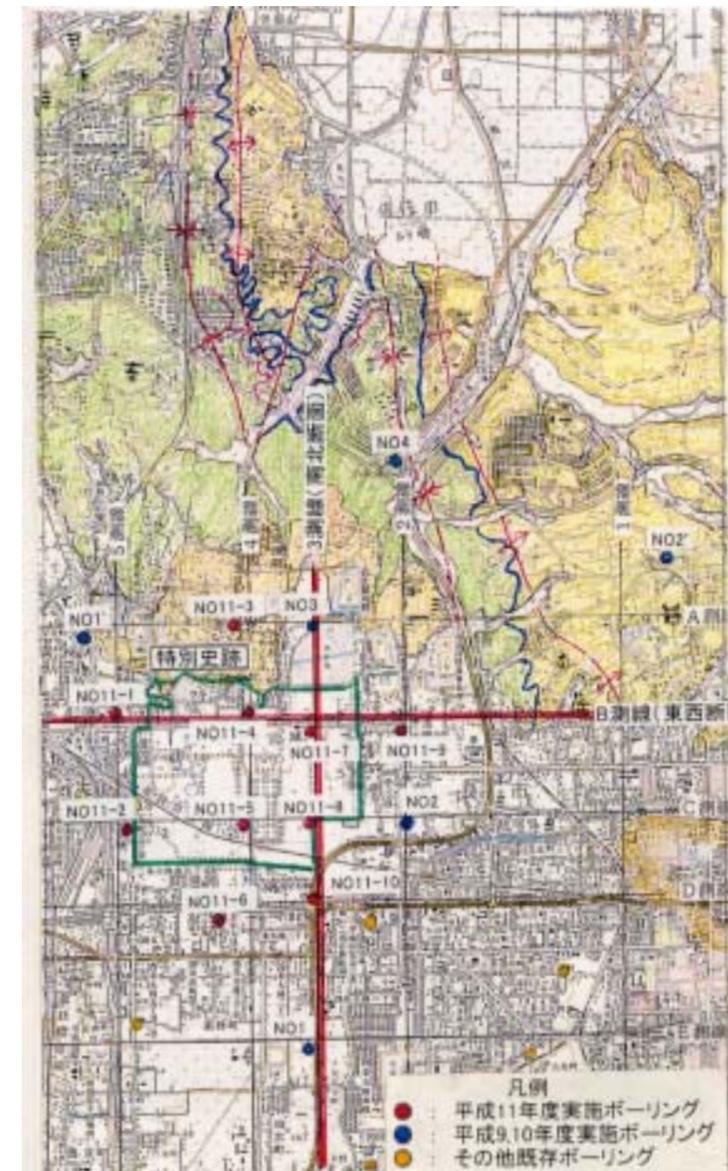


図 3-2-1 ボーリング調査地点位置図